



たいしも通信

最近、X(旧ツイッター)上で下関基地隊(以後「下基」)が話題となっていました。それは配備された、ある「ロボット」についてです。今回はこの件について、防衛関連ニュース第21弾を、少し肩の力を抜いてお送りします。

◆ドローンとロボット

近年、自衛隊の新兵器として新型のドローンやロボットが話題となることも多く、世界的にも実際の近代戦において、それらが戦局を左右しかねない重要な存在となってきました。ところで、そもそもドローンの意味は英語の「蜂」で、そのブーンという羽音からプロペラ音をイメージさせ、人が乗らずに遠隔操作や自動操縦で飛ぶ無人の航空機を意味し、それが今では無人航空機の総称UAV(Unmanned Aerial Vehicle)にもなっています。これに対してUGV(Unmanned Ground Vehicle)は、人が乗らずに陸上を走行する自律または遠隔操作可能な車両の総称です。他に海で活動する無人水上艇USV(Unmanned Surface Vessel)や無人潜水艇UVV(Unmanned Underwater Vehicle)もありますが、活躍の場が海に変化するだけであり、とりあえず今回はUGVに絞ります。

UGVは無人で動作するため、危険な環境等で効果的ですが、それ以上に省人化に対しても極めて有効であり、これこそ自衛隊における利点が特に高いものと言えます。また車両とはいふものの、実際には車輪や無限軌道(キャタピラ)だけでなく、脚を使用して歩行するものもあり、車両が進入できないような不整地での輸送や、偵察・哨戒任務に対応すべく世界中で研究されており、一部は陸自にも試験導入されています。

では次に、ロボットという言葉の意味は何でしょうか？ ロボットとは人間の代わりに作業を自動で行う機械や装置のことです。

あり、無人であれば、遠隔操作か自律行動かは問われません。従ってジャイアント・ロボ(古い!)や鉄人28号(さらに古い!!)は無人が基本で、かつリモコンで操作し、たまに空を飛ぶためドローンの一種と言いうことができます。つまり一言でいうと、ロボットは「自律して作業する機械」であり、ドローンは「空を飛ぶロボットの一種」という関係になります。

◆自衛隊のロボット草刈り機

下基は2026年3月、部隊に自動芝刈り機を新たに配置したと公式Xに投稿しました。下基に配置されたのは、民生品のロボット芝刈り機で、広範囲の芝刈りや充電を自動で行うことができます。さらに公式Xによると、「たまに家(充電装置)に帰れず、充電切れでその場に止まっていることもあります。元氣よく動き回っています」とのことでした。また、これらには当初名前が無く、一般に公募したところ、ユニークな命名案が次々と投稿され、さながら大喜利の様相を呈していました。

下関市内のもう一方の小月基地ではさらに早く、令和7年頃からロボット芝刈り機が納入されており、自分もグラウンドをトコトコ作業しているところを見たことがあります。現在、自衛隊員の業務改善の一環として、こうしたロボット芝刈り機が海自のみならず、陸自や空自にも続々と配置されています。

▼編集後記▲

まあ、これらの機材は「草刈りロボット」とされていますが(入札情報)、正確には芝刈りロボットであり、現時点では生い茂った雑草を薙ぎ払ってくれるものではありません。しかし今後、本来の意味での草刈りと、あわせて基地警備などの機能を備えたものができることを願ってやみません。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。